

令和元年度 晴海幼稚園 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立晴海幼稚園 所在地：中央区晴海1丁目4番1号

園長名：川越 裕子

園児数：191名 学級数：7学級 教員数：15名 職員数：16名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

(1) 今年度の重点目標と評価指標

重点目標1 「幼稚園3年間を見通した教育活動の充実」

- 研究授業や研究保育を実施し、小学校と共に幼児の育ちを考え、そこで学んだことを日々の教育活動に生かしていたか。
- 共通の体験などをもとにしながら、自分たちで考えて遊びを作り出していけるような段階的な指導ができていたか。

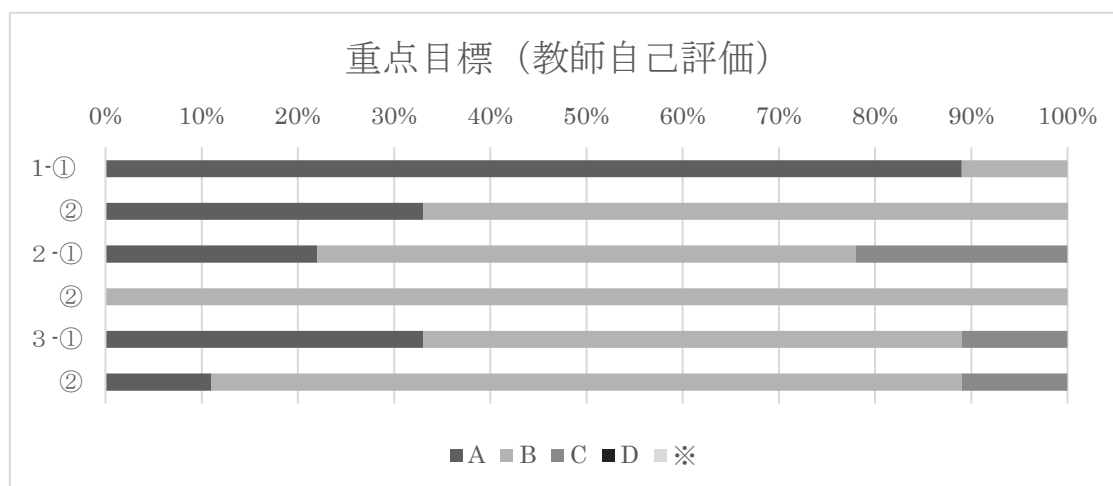
重点目標2 「オリンピック・パラリンピック教育の充実」

- 選手村までの遠足や地域の様子の変遷の写真の掲示など、幼児が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に興味や期待を高めていけるような機会を提示することができたか。
- 学級の友達や運動遊びの講師などに関わり、いろいろな運動遊びやボール遊びが経験できたか。

重点目標3 「保護者との連携の充実」

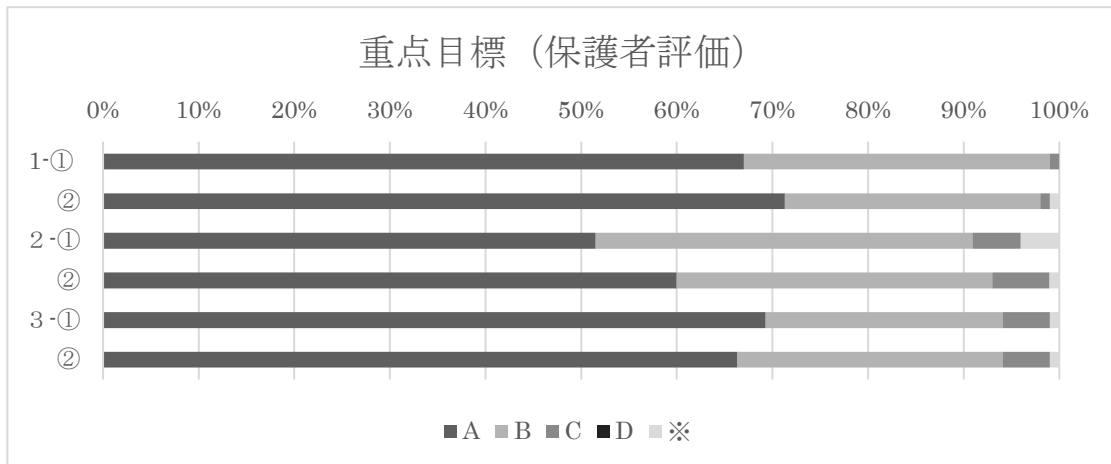
- 降園時の担任の話や懇談会、面談等、わが子の園での様子を知る機会の工夫がなされていたか。
- 教師の話や保育参観での様子から、わが子の幼稚園での様子がよく分かったか。

(2) 評価結果と分析



- ・評価が高いものは重点目標1①「小学校との接続」について  
→ 研究で取り上げたことなので、意識をもって指導に当たることができた。
- ・重点目標2「オリンピック・パラリンピック教育」については、教員の評価が低い。特に②「運動遊びの経験の充実」についてはA評価を付した教員がいない。さらに①「オリンピック・パラリンピック教育への興味関心の醸成」についてはC評価の教員がいる。 → 意識をもって取り組む教員が少なかった。

- ・重点目標3「保護者との連携」については評価が低い。  
→ 機会を提供しているが保護者の様子から幼児の様子が伝わった実感がない。



- ・ほとんどの項目について、9割以上が「A」「B」の評価であった。  
→ 多くの保護者が重点目標を達成したと評価しているといえる。
- ・重点目標2②「運動遊びの経験の充実」については、A評価が低い。  
→ 教育活動の内容が伝わっていないことが分かる。さらに教員も同項目での評価が低いことから、重点目標への意識自体の低さも分かる。

## 2 重点目標以外の自己評価と保護者による全方位的な評価における達成状況及び達成のための取組状況

### (1) 教員の自己評価 結果と分析

- ・特に評価が低いのは「情報提供」。ホームページの活用についてである。これは昨年度も同じく低い評価であった。  
→ 改善を考えているものの、なかなか着手できない点である。

### (2) 保護者評価より

- ・多くの項目で、昨年度よりもA評価の回答は増えた。特に3「幼児理解」7「規範意識の醸成」10「安全指導」12「保護者への情報提供」については15ポイント以上上がっている。  
→ 重点目標3「保護者との連携」を掲げていたので、教員が丁寧に保護者に関わったからである。  
また、評価の文言自体を、幼児の姿をイメージしやすく、保護者が回答しやすいように変えたことも、評価が上がった一因と考える。
- ・一方で評価の低いものもある。14「園舎内の清掃」など、目に見えているものは評価しやすいが、教育内容など目に見えにくいもの（7「規範意識」9「思いやりの心」など）については、低い評価が一定数ある傾向にある。

### 3 教員の自己評価と保護者評価の総合分析

上記より、今年度の評価結果について、以下のようにまとめられる。

#### ① 全体的に評価が高くなった

アンケート項目を見直し、保護者がイメージしやすく答えやすい文言に変えたことがよかった。

特に、研究に対しての評価が高かった。自由記述では、「長い視点で子供の成長を見守ってくださる仕組み作りに関わられている園で過ごすことができていることに安心」

「小学校と共に幼児と育ち、『階段の無い就学』の実現の努力がなされている。」といった感想もあり、幼児期から就学に対する安心感が感じられた。

#### ② 家庭との連携が密になってきたが、幼稚園教育の核が伝わり切れていない

重点目標3の評価をはじめとする、保護者との連携に関する質問項目の評価が高かったことは、『我が子』の様子が分かるように」を目指し、降園方法の工夫や幼稚園公開の回数増、個人面談を公開後に行う、などの工夫を行ってきたことが、保護者に評価されたと考えられる。

さらに、昨年と比較し、個人面談以外に担任とじっくりと相談することを申し出る保護者も多くなったように思われる。園長相談日も回数も昨年度よりも増えているように感じる。

園の教員が信頼され、『我が子』の育ちを共有しようとする保護者が増えたことはうれしいことである。

一方で、家庭との連携への意識について、保護者と教師の間で意識が異なり、教員の評価は決して高くない。教師は保護者と関わっているものの、伝えたいことが十分に伝わったという実感が得られていないようである。

また、子どもの育ちの「見えない部分」(非認知能力) についての評価は一定数よくない評価があるのは、教師が伝えきれないことの表れであろう。情報提供の内容や方法を工夫していく必要がある。

#### ③ オリンピック・パラリンピック教育はもっと充実できそう

重点目標1についての評価は決して低くないが、重点目標2についての評価は決して高くない。特に教員の評価は低く、意識はあるものの実践できていない。次年度はより意識をもっていくべきである。

特に、学区域に選手村を擁することを強みにし、区の動向を探りながら具体的にできることを考えたり、幼児が様々なスポーツやアスリートに興味・関心をもち、それを夢につなげていったりできるような掲示や遊びへの発展を工夫していく必要がある。

#### 4 次年度に向けての改善方策

次年度に晴海幼稚園で大切にしていくことは、次の点である。

評価の結果や区の課題などから、次年度、晴海幼稚園で大切にしていく教育内容は、次の点である。(大枠は変わらないが、目指すところを狭めていく)

- 小学校6年生までの9年間を見通した中での幼児教育の充実
  - ・学びのつながりを意識しながらの幼児の育ちの充実
- オリンピック・パラリンピック教育の充実
  - ・本物に触れる機会から運動遊びへ意識の醸成
  - ・晴海地区の変遷と自分たちでできることの充実
- 地域・保護者との連携の充実
  - ・見えない育ちを「見える化」する工夫
  - ・ホームページの充実
- 幼稚園60周年の節目の年での教育活動の充実
  - ・60周年を祝う行事の充実